



^ 13  
3139  
4



古今奇談 野話 第四卷

六 素卿宿人二子 唐土に携ふ話

ある人の必に終るゝ大才れ人約本の套へ入びて、  
なるがゆへに、  
其坂を廣くして、  
度とあて人を換り、  
の弘治正徳の比、  
何の少年より亡頼、  
い。妻子を遠く棄て、  
泉州場より、  
及山州の間、  
く奇みと、

市谷若州屋  
田町藤共備

昭和九年  
九月十二日  
購末

兆何某其邸はたれた命と諸を家せり文と作しむるよはば  
我邦の人乃習ざる而他の異より雄たれば世は愛ふ事多く又漢  
土歴代の故まも記憶するは海濱の梅とて博識多徳となり  
遂は室町の所を拓泰し拓湯をゆるす統歴の師となりたまを  
をめて富貴を乞ふは唐土ありしは遂は海濱の膏梁は飽多宅  
み富も財帛前は漢ら婢妾後群を余州に未男更友人と出  
生し其休育我幼き時よははらりしとあはれけても故國よ  
のこせし五人の男子母と共よ今出へてなりしやと記掛下とて府  
義植公治よへて足利家の職を執ひ永正に奉信使を唐土遣  
はる孝案内者たしむて朱縞を使え充らるこは西の京のまよ  
聖廟を建てるは孔子の儀を請得てゆぐと命せり  
朱縞屋とて同公大にほひ字は用て素とて披露し博の

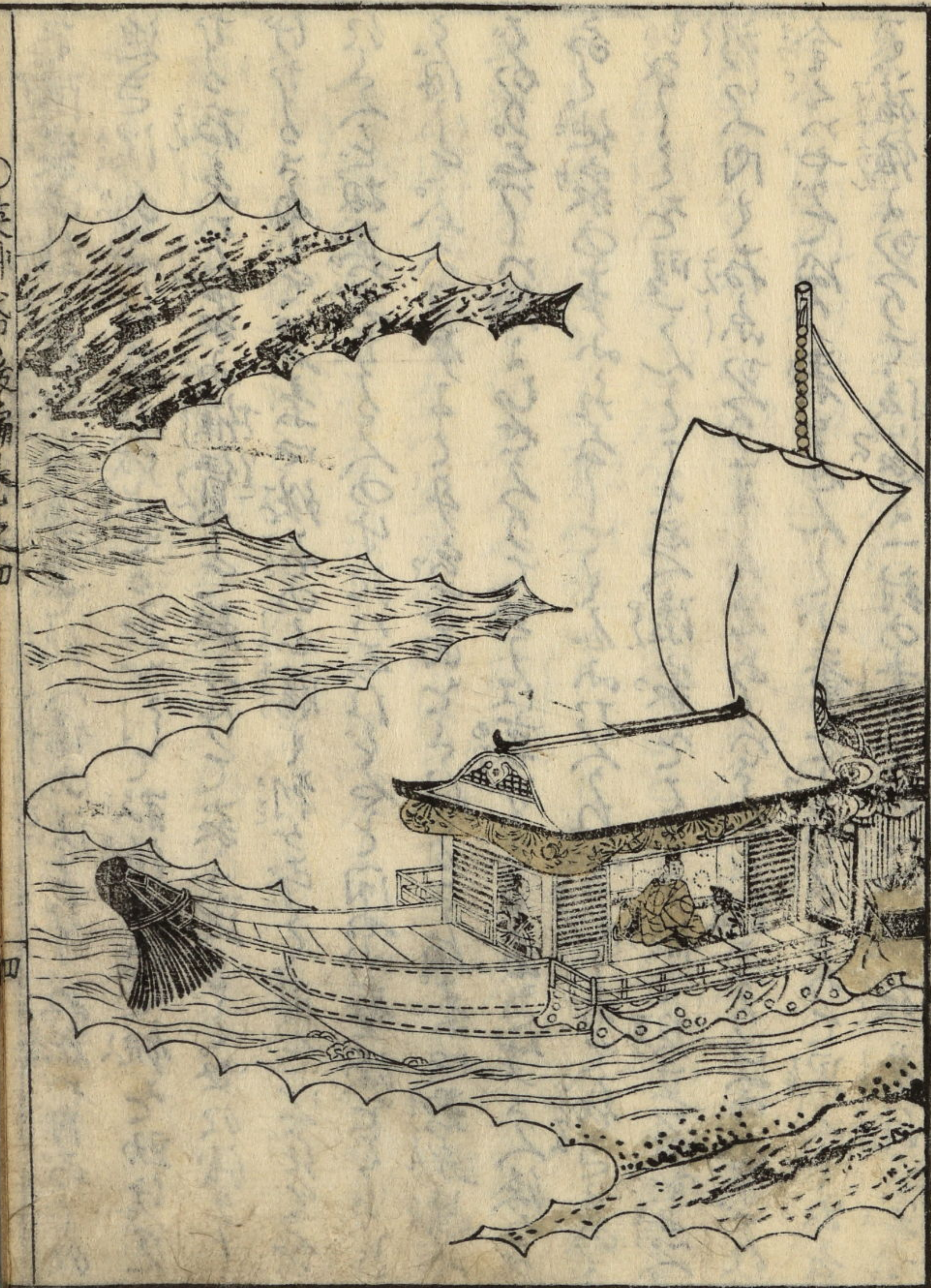
漢は系船の設けをたてしとてその纜を解んとするれ時送るま  
こしある士とまかるが別も成場とて是をはよく格懐らるがけ係  
つりて俄に云や唐土のこの本國たれば行むる必とぬるま  
あるはとまなく見せし推してはまことかゝることと素は云我  
本よ来つて榮貴をねむらむとてびたてて行て着田の面目と法  
りんと歎するとの奉むらりいんぞけまはゆらざるの理ありん公  
の使はゆららん我思とほるるあるんは公乃と知るる未練  
のまとうそと顔をとるどねたむせどもはへまはゆらなるんを  
まね二人が命を失ひて後よいんまするせまうり死せり別あり  
てんとてなり同ト世は流まらむとて青真の長天緑水は波深愛  
魂どもむらむとていなるを隔てありん死別とてはなるらん  
ゆらんあそと杖を取て放らる素はけ言はてはとるる

英中家後編卷之四

うる人身の世はあつて七十稀なり。其間親子は聚つて歳なりあり  
 遠く隔りて生るる世ふとむまのそまなり。我職を守り身と心  
 むべき仕官の身はあつてあつて。人と流り世代別とる能ありあもあ  
 どいふものりの業を貪て知きものあつて。然て人や親を  
 一不は終せんべい任を辞し田疇は然て民とんあつて。け親を  
 又京都に遣し。二子成者んことと哀と結する。是えより官途と  
 踏め言出らるべきことあつて。あつてあつて。彼が二公たれたる  
 の貨たれども。今日の其体詐にあつて。あつてあつて。具して終  
 とゆつたれども。素の所意とあつて。あつてあつて。書童の極より  
 ましぬを出し海上は月とあつて。あつてあつて。明の正徳六年波土寧波と  
 言つて。是唐の代乃明州の津なり。錦の袂をたつて。翻し。京師は  
 て信を通す。是れ子を祀の儀はを請ふことども。國書に申す

おしりの話つたをて許さんど。素は機智とつて。賂と厚くあつて。  
 園人内宿は然て内奏とは。飛魚服を賜て是を索して。陽燈は  
 類く寧波に至て。昨日涉ぬる。内は。都縣はゆれた。日とく  
 らし。唐人の服して。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。  
 是は。家の依舊が。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。  
 人信も。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。  
 小童。監儀の裾を。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。  
 仍人。路は。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。  
 四。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。  
 敷て。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。  
 命。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。  
 語。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。あつてあつて。

舟行圖



英州府後鎮卷之四

了。隣家の趙之録は拘るゝと此人場の所となりぬ。然れ日おんな  
近き漢おふりて。水以上せらるゝとて。叔姪をねて。飢を助け。足  
なる存家の人家ふ権借しと救うけて。家よつるゝ。世に流す  
げかるゝと。素に鉄石の心腸も刺がぶく。目をぼんやりと  
にふと。お其のくわりの人のせぬのなほ。と。同ふ童孫とらりて  
らほして。今の日夢もて。身おて。面とらねらるゝと。素に。悲  
ぶあり。と。げり。海よむせらりて。世に哀かるゝと。ぬき。げら。海な  
ぬ。他家の事ふねるゝと。ふたふた。言の。りて。初き。め  
ひ。し。を。晴。て。んと。と。と。隣家を。と。り。破。は。且。其。所。と。ぬ。  
初。し。内。も。存。家。の。り。身。ら。ら。あ。ら。んと。記。あ。り。げ。の。命。だ  
全。く。い。や。ぞ。ゆ。り。来。ま。せん。と。小。童。を。言。な。ら。り。て。男。も。出。去  
了。旅。館。の。り。り。て。後。遂。一。封。の。書。を。ね。の。親。族。朱。沈。は。寄。す。

朱沈書を切て朱縉が今れ身のふと知り。鄭の存司に告ぐと云  
日本の使に宋素卿とす。ゆは族子朱縉が。となり。成。け。い。ぶ  
朱の字を宋と。記。て。たり。なり。彼。は。出。身。志。す。の。め。と  
と。始。終。沈。して。後。談。を。ぬ。る。の。を。愈。と。る。何。の。流。に。外。國。に  
を。失。り。て。沈。は。宋。を。實。然。を。す。と。鄭。の。令。は。ゆ。り。て。書。を  
其。對。面。を。遂。し。む。朱。沈。や。ぞ。旅。館。に。來。て。素。に。よ。ら。へ。書。と。ら  
ら。り。人。情。を。ひ。た。素。に。足。は。今。銀。沈。定。と。て。あり。と。控。り。あ  
ら。り。一。面。人。を。と。ら。て。あり。と。い。ひ。し。人。今。う。を。親。子。れ。對。面。を  
ら。り。なく。然。在。定。ひ。る。に。つ。き。だ。既。お。し。て。素。に。如。國。の。あり。と。書  
一。取。に。疑。んと。する。何。な。素。素。の。希。有。不。再。會。と。て。流。す。と。て  
別。り。て。成。か。る。と。共。に。連。ぬ。と。い。ひ。さ。り。け。さ。告。素。卿  
を。控。り。て。云。你。二人。の。唐。上。は。生。た。ら。て。今。ち。ね。國。まで。ぬ

人として。危を角とて一而よとむべきの念めをなさん  
 其や人の子の。けれて不使よかるしくその小児の比のあを  
 之。又い若衆の比の跡より。一族に諸君より。備へ。休むと  
 す。つもの。又母の困墳墓れ地を去。他國よありて。異客と  
 なり。日本に去き。悲遇とて。改まらば。又。古。仲。満り  
 治。火。踏。て。兩國の。素と。蒙。ん。と。休。我。を。素。と。つ。ど。我  
 六十を。と。て。いく。ぐ。れ。年。う。け。世。よ。あ。ん。我。日。本。よ。素。あり。と。い  
 へ。ど。も。外。國。の。人。親。し。と。な。く。誰。も。私。を。托。む。べき。之。を。和。國。れ。あ  
 子。も。病。と。所。揚。し。て。け。地。よ。と。あ。る。並。べ。し。人。も。ひ。の。す。く。と。い。に  
 唐。土。の。人。と。な。ん。又。い。る。現。成。跡。ゆ。人。よ。後。程。の。志。出。り。あり。び。た  
 身。の。人。なり。海。へ。て。他。國。よ。久。し。き。い。我。秘。の。志。よ。あり。す。或。程  
 なく。海。り。来。て。一。而。よ。復。せ。し。げ。度。又。一。而。よ。終。ば。き。て。一。連。来

あり。成。ゆ。る。結。ば。し。其。間。朱。泥。の。許。よ。と。ほ。り。て。お。ま。び。れ  
 くる。と。か。め。と。と。と。勅。使。と。副。使。よ。す。せ。ど。と。い。と。み。こ。る。  
 男。也。若。も。父。の。久。し。く。す。来。ん。と。い。成。力。よ。終。の。り。あり。る。  
 素。の。海。昌。の。津。より。船。出。と。り。四。子。も。東。に。の。り。て。お。つ。り。来。り。終  
 土。の。常。人。有。司。皆。別。酒。を。酌。け。く。て。素。卿。私。よ。の。ん。と。い。ん。  
 の。子。又。と。中。よ。と。と。て。大。人。子。あ。保。重。と。い。よ。り。外。の。詞。ふ。さ  
 かり。て。よ。ご。わ。そ。り。と。だ。出。て。お。と。東。へ。な。成。と。あ。り。て。私。と。え  
 ん。と。と。兼。緒。より。の。べ。出。し。る。船。の。い。と。ふ。さ。く。なる。は。で。と。と  
 であ。ら。う。東。へ。入。り。と。ど。な。は。は。私。と。い。ま。い。ら。う。し。な。ひ。て。ん。と。胸。つ  
 が。り。や。り。なる。も。理。を。か。ら。う。ら。ぬ。程。り。た。而。も。別。道。に。は。し。き。さ。う  
 ひ。なる。ん。は。し。て。危。き。は。清。と。凌。ぎ。み。る。の。ら。を。ん。来。る。身。の  
 かな。と。ぞ。り。た。ら。ぬ。な。げ。き。な。う。ん。し。や。と。一。日。と。来。て。こ。を。旅

のちより立りぬ。かくて美かきぬりありとれば信使調さる  
て賞賜多く恩遇者日比倍々。此て義晴公の家業を  
嗣ふ。世に強くしつれを慮を遠くたぶらふ。大永二年信使  
を明遣へる。所は細川高國を頼り僧の瑞佐と宗  
を遣へる。其ある高國の之内義興より信の宗設茶と識  
道を仕りて信を色ど。是の内家先より別働隊の  
所ありて。毎夜を夜者例なり。其使あるとぞん素御より  
先より到て俱に寧波と海。彼土の先例より。其高國の使  
多はば先其貨を圓して筵席と請ふ。高客等へは之を  
貨の多きと上座と片し。貢使へ其高國の前後より  
て座とさぐむ。素御に彼地案内より。市舶の文監と略て  
親婚の瑞佐を遣へ。是より市監先より瑞佐と貨物と圓。宴

おてか

席に先瑞佐を請て首坐し着し。宗設を次の右に居し。も  
宗設より先例と遠りと。瑞佐と急争となりて席間と  
相極まり。ちりちりし。席互に怒怒とぞせだ。何の仕出せり  
あまなり。論一極り。急争なり。大監はそれ刀剣と瑞  
佐と換けて戮し。宗設が一隊逃て旅籠より。刀鎗を取て  
再び戮し。強執を。總督佐衛都指揮劉錦。是とて。宗  
出て。右方と制と。宗設が。下の子。若。劉錦を斬殺し。  
大に揚。寧波近き海郷の。瑞佐を。奪て逃れ。宗  
進。兵を出し。礼を。小京より。彼。宗  
経て。其。市舶。宗。素。の。派。港  
を。上。其。命。と。宗。死。論。と。遂。死  
刑。謀。道。瑞。佐。の。人。と。使。使。を。



同て本國又還て去む。け禍いハ之市舶より起まるとを。其後  
後此の市舶と禁制せり。其書美心人の記録も毎歳より。系  
は鄞江の一属ハ初は新へ出たり。成以て系累及び。四人の子へのあり  
らん。核智ありを信た死者ハ素以て識たり。守て。去めても  
其親子別とせり。別離の情世乃人をして。酸鼻せり。和紫唐社  
の曲幸ある人今小むて憂ふ

⑦ 聖月之命 兼合流成脱て家と續し話

醍醐帝ハ佛宇。若狭國高島山ハ妖賊據據て。其強奪自眉鏡  
王と稱号し。賊徒と集あつて。命と拒む。其近色の人民害と交  
ふる甚し。國司殺く是と改ると。そも除くことあつた。朝廷より近  
國遠國より。たせて助力せり。先も。賊徒強力のもの多く。あつた。  
其合戦難なるに及ぶ。賊主眉鏡王齊戒して。妖法を修し。

自ら出て戦ふ。射ハ一身。忽ち百子。愛ドて人を殺は。是より。て寤  
軍勝とせり。あつた。十分勝べきの場より。ても必と。兵を折く。寤  
軍の中。信法武士。聖月。若狭。春。月。次。命。負。同。之。命。兼。合。  
兄弟二人。一隊を結し。味方。れ。は。は。て。敵。同。遠。く。な。る。近。居  
して。ぞ。ア。ス。ル。二。部。兼。合。は。清。く。ん。柔。和。なる。面。露。なる。法。油。より  
面を黒赤と染て。諸軍皆生得く。之。今。素。面。を。露。し。清。春。負。れ  
は。合。同。定。の。家。士。丹。二。平。六。五。十。斗。の。人。殺。し。愛。ふ。より。て。無。と。き。を。た。て  
示し。合。也。故。と。情。敵。の。要。害。ふ。より。角。ハ。へ。は。國。小。敵。の。者。ども。も。る  
が。案。内。み。具。せ。て。ま。て。か。ち。は。長。の。子。の。陣。し。ゆ。い。ぬ。奇。な。は。は。れ。故  
軍。小。膽。を。消。し。陣。を。払。い。退。き。を。救。を。禁。延。と。を。ふ。り。か。ん。べ。り。と  
う。就。は。味。方。ふ。あり。より。許。容。あ。つ。た。次。の。軍。し。先。も。は。は。り。移。骨  
ま。す。許。す。らん。ば。は。勝。利。の。後。乃。安。堵。を。賜。て。小。敵。又。返。り。休。息

とどくしとぞPなる。門卒皆是我が計ふありと。此より入りて  
と。嚴密に人殺を執るとみ。畏を書て蹄筋に結びつけ。後乃  
撥むむひ射あしう。暗くあつて向ふの嚴密より掛探を始たり。  
兵士二十よりある。一個は虎の如く。熊の如く。兼舎が人殺を  
覗めし。ゆるりたるもの一人懐中を捜るとる人。無刀ありて中  
陣ふありて軍師に對面せし。其後へ安ふと傳へるしと云。兼  
舎兩ふ色青くなり身と慄して後日へく。其の兵今一人をるは  
は亭法一ありといふ。あつてもかかそ。夜まれば。隙よりもの八人の内  
くるまでにはあつた。はつとすまじと。皆と詞をそつと。さく取  
て休息とるに如く。思懼する者もあつた。其後弱卒奥へ  
入るるもゆるりあり。いざ来たれと。賊徒が前後より包て探せり。  
陣路は鉄門のありて。軍師の陣はあり。軍師石丸虎

搦のり對面と。是月が詔をわのぐ。石丸竊候の陣は  
とせしむる。兼舎の武士乃四より入る。定て実情をうんと  
し。石丸熱酒の盃賜ふ。其後へ安ふと傳へるしと云。兼舎が人殺を  
ばるる小酒を酌て。酔く一献と奉て兼舎へあへ。自酌とれ  
て。兼舎兼舎項哉とせしむる。其後へ安ふと傳へるしと云。兼舎が人殺を  
掌をさす。是若くも口をよせて。此不血の事をさし。あり  
び。と。兼舎を赤して。返ふ。其後へ安ふと傳へるしと云。兼舎が人殺を  
飲ん。軍師をく。兼舎が人殺を。其後へ安ふと傳へるしと云。兼舎が人殺を  
して。兼舎を。軍師をく。兼舎が人殺を。其後へ安ふと傳へるしと云。兼舎が人殺を  
居る。其後へ安ふと傳へるしと云。兼舎が人殺を。其後へ安ふと傳へるしと云。兼舎が人殺を  
あ中へ。兼舎を。軍師をく。兼舎が人殺を。其後へ安ふと傳へるしと云。兼舎が人殺を  
か。兼舎を。軍師をく。兼舎が人殺を。其後へ安ふと傳へるしと云。兼舎が人殺を



英州行状記



英州行状記

九



あり。その後、侍人て鬼を殺し、靈を使ふて、成習ひ。軍中、又因て山  
 上、授て林に掩て、眩暈をばし、頻の勝軍に、かゝり、清浄とほとめ、後  
 の山村、妻をかん、四つ、並ておき、晴る、成通、いり、さう、ひ、し、妻  
 け、許、酒の、を、か、る、あ、身、ち、め、た、の、二、人、人、周、陵、来、り、内、郭、に、敵  
 へ、つ、て、愛、あり、此、如、く、搜、て、来、る、べ、し、用、心、と、あ、る、に、驚、き、只、六、人、を  
 従、へ、て、溪、と、ほ、ひ、て、落、ゆ、間、に、れ、あ、る、と、さ、り、里、ち、め、か、り、て、あ、い、め  
 たり。泥者、皆、云、ま、り、く、あ、る、の、か、勢、乃、さ、ぬ、より、は、は、り、び、ぎ、う、い、り  
 中、て、も、所、給、の、き、う、く、と、か、く、統、か、う、く、人、も、入、難、候、さ、ま、い、の、眉、鱗、王  
 実、も、強、あ、る、は、眼、が、身、か、り、潜、た、る、形、の、折、う、か、れ、ど、早、く、龍、衣、を、脱  
 ぎ、と、れ、げ、せ、ど、も、換、て、あ、る、と、ん、き、袴、衣、か、り、震、襟、あ、ま、さ、る、ふ、怪、し、い  
 水、水、は、流、る、路、を、き、こ、ら、げ、か、る、傍、れ、朝、氣、の、雨、を、義、よ、ら、せ、た、ら、ぬ、子  
 影、う、け、て、里、に、頭、陀、と、る、と、入、る、を、や、が、て、お、と、り、將、て、あ、り、着、と

足、し、を、山、中、れ、君、と、ま、さ、う、せ、ま、し、休、ぐ、衣、服、を、ら、る、錦、の、は、衣、に、換、て  
 糸、く、せ、い、傍、人、に、驚、た、れ、と、ま、そ、せ、ま、し、ぬ、と、さ、ぬ、く、よ、そ、て、ぬ、ぐ、と、り、  
 ぬ、大、王、の、上、袂、下、襦、袢、を、換、ら、る、下、は、ゆ、く、白、徒、の、袖、を、襟、深、の、ひ、か、る  
 上、は、久、上、た、る、湯、桶、の、日、月、袍、は、白、布、袴、の、あ、る、を、た、る、よ、か、り、密、會  
 系、れ、き、せ、た、ら、ぬ、五、倍、深、の、傍、衣、乃、袖、も、破、と、ま、た、る、久、身、の、か、り、と、り、  
 既、に、湯、桶、の、金、冠、た、く、裁、く、ら、い、ふ、似、あ、る、は、あ、ら、う、た、と、傍、友、人、ら、る  
 心、の、ん、笑、を、吹、出、ん、や、と、雪、帽、ま、よ、と、き、久、髪、を、帽、子、の、内、に、ま、あ、る  
 茶、を、て、湯、桶、の、湯、紐、よ、う、て、小、小、や、り、ち、る、証、を、お、か、け、ら、る、に、ス、の、思、れ、乳、の  
 き、ま、の、さ、が、ら、う、め、き、村、藤、の、ら、を、禿、ら、る、鐘、本、よ、取、く、ら、る、法、力、を、  
 水、に、映、し、て、我、か、ら、せ、う、き、ま、う、ま、た、う、く、道、の、と、も、後、痛、き、と、ま、あ、り  
 倒、り、み、ま、ん、ま、ら、ぬ、改、め、ぬ、形、た、必、ど、あ、ら、う、れ、創、業、れ、君、の、難、度、し  
 蒙、塵、と、た、い、賤、乃、服、を、御、と、る、と、例、あ、り、い、ま、傍、と、か、る、は、法、之、原、始、例

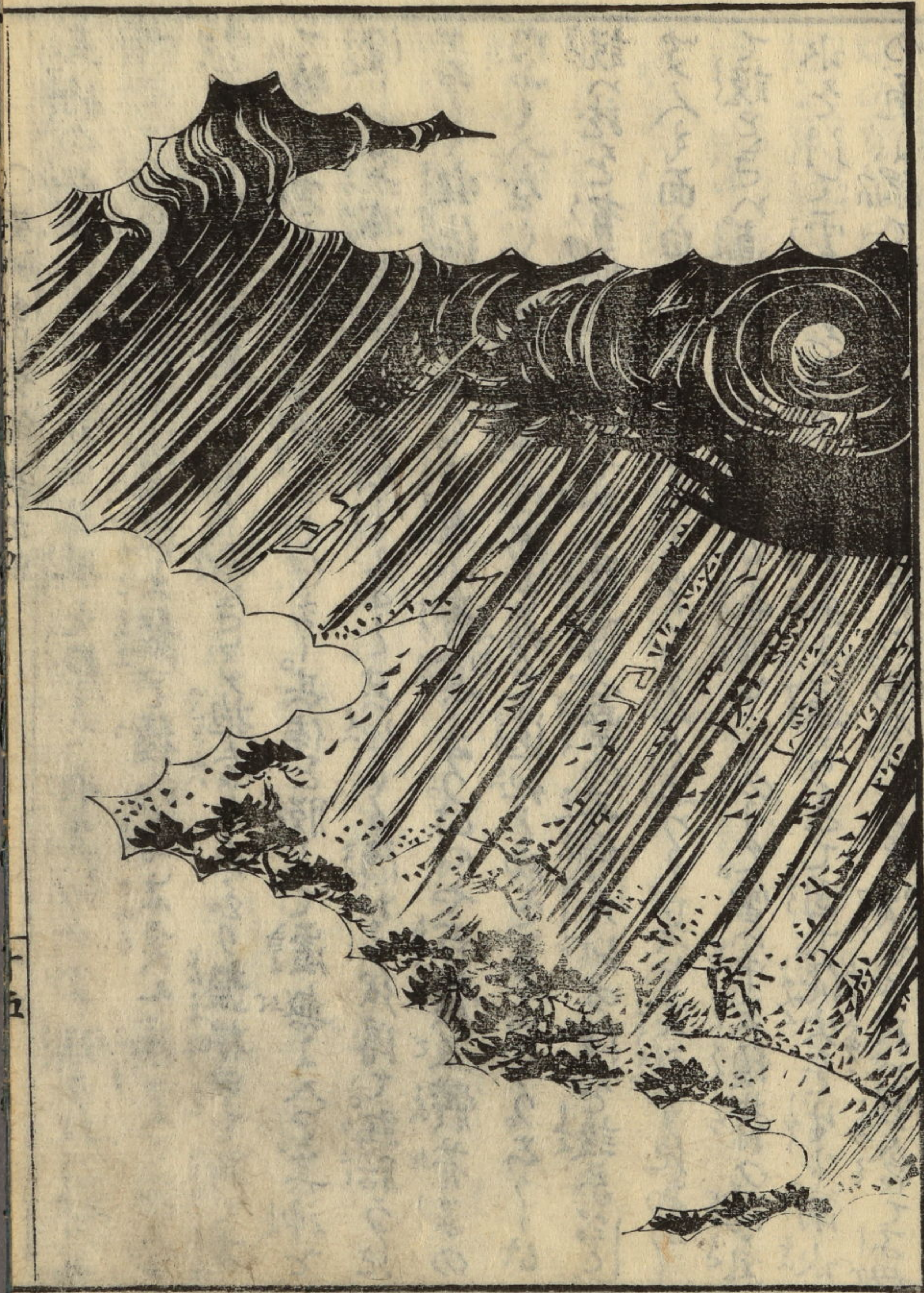
たりはむ。ばあひの醜責家よりほ。よるるよりりくおめそのい  
 といさう仇ら。げ川をまゝうば岸の鼻乃。姫が治ると。なごののからんを  
 りりてあつやま。いん下素れ傍。其多頭の。浄劔の先祖大山名のみと  
 より。竹葉の家實なる。治世の後。持まう。此山尖片と。揚子傍。位は。松枝  
 たりまじべ。と空たの。とたる。潜上。大言して。後。既をさうて。多。た。り。る。松。枝  
 舟子も。知。つ。き。に。松。枝。の。なる。ふ。軒。の。音。き。け。呼。起。して。船。は。ま。ま。と  
 舟子目と。摺。欠。伸。し。つ。松。を。よ。せ。軍。人。た。る。成。て。腰。を。座。め。  
 きたりた。傍。の。後。て。の。ん。と。す。と。と。次。の。便。船。を。角。ぐ。べ。と。さ。り。と  
 比。ま。さ。じ。素。る。軍。人。は。い。に。傍。ら。ん。る。か。ら。ず。い。ん。早。く。の。り。ね。と  
 つ。ふ。か。と。お。て。の。り。う。る。を。さ。り。人。よ。お。ま。と。か。と。は。せ。松。を。出。し。な。ま  
 つ。ふ。五。人。の。兵。の。早。く。上。る。み。よ。い。ち。と。お。て。再。び。川。へ。押。出。と。い。傍  
 つ。ら。り。我。を。い。ふ。上。ぬ。と。こ。と。さ。ぬ。と。き。目。成。り。み。出。た。舟。子。棹。を

と。と。板。忍。り。し。き。眼。は。き。る。と。つ。と。より。て。備。及。よ。ふ。志。う。と。繼。傍。り。か。と  
 出。し。の。り。う。い。が。船。上。上。の。踏。不。定。と。ど。か。な。く。も。紙。を。や。ま。ま。と。り。  
 舟。子。繩。を。出。し。て。御。ほ。く。な。成。山。岸。よ。あ。り。し。み。人。船。を。忍。て。あ。せ。り。さ。け  
 ぶ。この。農。人。出。来。ま。て。み。人。の。兵。を。擒。よ。す。足。農。人。の。あ。ら。じ。兼。舎。の  
 家人。舟。二。舟。と。名。なり。舟。よ。い。即。兼。舎。なり。生。捕。を。委。せ。て。見。ら  
 陣。取。よ。つ。る。右。弟。二。弟。見。と。ん。て。よ。柄。と。身。に。こ。さ。れ。安。の。ら。ば。ひ  
 の。子。僧。衣。の。の。と。い。ん。ぞ。眉。髯。王。と。い。ふ。べ。き。い。ぶ。く。と。う。け。が。ま。ご。り  
 取。へ。多。前。の。衣。と。ご。ら。く。る。頭。院。の。僧。錦。袍。弓。劔。と。持。あ。り。て。其  
 板。と。さ。る。け。傍。り。と。茶。師。を。れ。新。案。意。兼。舎。を。り。て。敵。ら。り。細。作。を  
 な。さ。り。め。ら。り。わ。り。る。遂。に。兼。舎。が。よ。柄。と。櫓。山。塞。の。令。鐵。を。差。を  
 流。し。か。ら。兼。舎。と。ら。中。に。波。鉄。の。玉。あり。兼。舎。生。捕。の中。と。け。玉。よ  
 粒。玉。を。傾。け。種。と。酒。り。り。に。足。取。人。石。丸。が。説。と。受。て。賊。營。の。例。よ。右

き人穴ありて賊首の眷属うたれたる。是とのごとく並ぶべきよあはれ  
と。二人再び山に登り彼窟に除みたるに直よして井のぶく。石を  
投ふ。其底ふく。人とたれらしんをどいつて。交りたるやうめて悪  
舎は不さ。実落したり。土を以て穴の口は塞ぎ。始終を友人が  
功。眉驕王を引せて凱陣し。兼舎我死と披露し。二人悪賞  
と交て地を安堵せり。兼舎穴に落ちてこまびに絶入。ととりども  
漸く身をほき。打換とる腰膝難保がく。岩中。明王のあつことを  
抜穴とるといざりして終つて。幽。天色をみるをわれも出べきは  
もふれば。何の賊徒うたれたるか。是友人の悪をうて我を陥たる  
よとさとり。叩ては終つて。鐵。及ぶ。穴の内。合。留。び。お  
やわくと胸はづさ。ま。ま。あ。て。い。え。ん。ど。し。て。わ。の。う。さ。や。老。人  
ありて。兼舎。你。愛。し。か。う。ん。穴。は。出。べき。ほ。り。と。あ。ま。と。か。と。は。る。

よ。少。い。ん。た。の。せ。て。ま。て。け。老。人。を。お。し。て。穴。は。出。る。事。と。好。む。ま。い。  
再世の恩かりとべしと。見五人の姦智を許へ告ぐ。老人云。世の人心  
移る。死の古より殊り。我の久しく定まらぬ。百年二百年の  
此穴を出た。近首は穴は出べきもの。あまば必と。你と送り出たべし。兼舎  
はほひ殺ふ。老人。ま。き。儀。を。お。し。て。兼。舎。あ。ま。て。鐵。を。ま。の。べ。し。と  
す。兼舎。是。と。喰。て。よ。り。ま。と。鐵。を。ま。へ。ど。ま。る。ま。も。い。う。る。神。仏  
ふて。海。う。せ。ま。へ。と。回。を。我。は。古。より。其。名。を。は。る。る。あ。ま。の。精。氣。  
の。長。かり。能。を。以。て。ほ。く。能。出。は。能。わ。る。の。精。氣。の。及。ぶ。不。り。う。ん。わ。  
兼舎。お。い。ふ。兼。山。は。は。る。と。い。ふ。是。は。穴。の。主。か。る。べ。し。と。祭。り。て。我  
世。出。か。る。一。郡。の。ま。と。る。我。失。つ。ぬ。の。考。ぬ。お。わ。げ。考。よ。け。穴。ま  
進。り。ん。と。い。ふ。兼。山。を。揺。て。我。の。清。虚。に。て。抗。濯。を。飲。食。と。嗜。む。ま  
畏。悪。る。し。彼。燕。血。を。嚙。と。若。株。と。畏。ら。い。是。蛟。蟻。の。類。の。も。兼。舎。問

27 26



英州序後編卷之四

十四



其龍の好所いつある。蓋曰且睡を好みて長られば子未短られば百其  
 洞穴に僵卧して鱗甲の間沙土聚り積み。鳥木実を銜来て其上に  
 送るが鱗上の両葉を生ず。若きまの抱合とんぶり盤根甲と折て方  
 て睡を覚る。遂に脩躬をくげあり。其体を脱して塵無し入る。其神を  
 澄して宋滅自然の返と形とまると其他に随つて得て。胚胎るに  
 がおとく凝結さるがごとく。恍惚小香具多り。け時や百骸五體芥子の  
 内にも入る。還元返本れ術をぬて造化と功を多ふなり。若くは  
 説へ龍を有形の生活して。二上勢と二空の二停九似の法を設ふがごとく。  
 又人も面白く奇くしてたもありなりと云う。是と定形なり。其  
 て説ときハ真龍の体ハ雷と表裡あり。あつて雷ハ中天積背の陽氣  
 水を引て雲雨を醸し。其水氣は逼らきて固て純火を生ず。雨水  
 の氣は觸て遂に射ておを撃つ。おをうらして消せざれば凝合して子母

炮の勢ひの如く。空しく觸ていらく遂に消滅してやむ。是陽激しく  
 陰に就勝るなり。陰陽相搏て芒毛を生ず。又獸をくはすと云ふ。  
 龍ハ地中積背の陽氣。地下の陰氣と和せだ。地外の陽の射り  
 動さるて爰に宅を水を生じて雲烟を起し。雷電をもつて各  
 半を雲ふ入て旂の如く掛り。雲端に伸縮の貌あり。其を暢と  
 欲と振入なり。既に暢て洒散する。射り一を和と。一氣と和と。射り  
 射り本末は返して形なり。秋風の寂滅の空の如く。老るは塵を  
 を以て有る。其人の教也。其爰揚して近藏の徳を失ふと云ふ。み  
 彼龍の如くと聲する。何のりてきうしく現る。よあはれ。よ升る。きうの  
 地下に潜居して陰陽の如く動る。いづれも密着して覆せざる。云  
 なり。儒教と云ふ。人の空者の二つ。よ若せぬ。世はなるべし。おは清り。射り秋  
 風の空を以て消し。動きやとれ。射り老子の虚を以て息し。三教は也

用をせむ安らう人俗説上豊城の劍延津入て龍をかくると云。其龍燒  
 して作らば人自龍のおよぶん豈然龍と云々を事を得んや佛説上  
 龍女天龍を説く所の教にの及ぶ所廣き以りたり。又龍城より龍女  
 今よの説い文人多と事なるの虚説すて益と云文章なり。間次は  
 其事ありも皆水相乃妖は魅でさるるも其龍の事と云らば易  
 乾の象として似げなり坤の象不配せしむ却て我真龍を  
 是つやと云と也定未なり。今化生して形を現むるといひ身を助ふの  
 造化なり。我形たよりふありす。休け穴の泥を身ありて晦冥の時と  
 待ば身を換せば上升の事ふ素とて穴成出べしと。細く告てよくも形  
 なり。昨日の後穴の中黑暗として雲烟湧ぐ如く其身を無が如く。雲  
 震動天折地崩がごとく。閃電志きり小のやれ山中の大石動て揚  
 んとと兼合身自はるもせず飛揚と。是れなき時あると。傍れ山を

卷てのむねを穴の口をわるとも。冥の裡其勢をむべうと云。其  
 ともんとす。もふ弱る本の枝とててて其理のさめいと知らず。俄  
 かに雲晴ればは身大木の梢あり。急ぎ地よりて踏し出るとは  
 民居あり。足となりら賊寨の後の山村なり。我のみんと捕へる所と  
 之節なり。軍中にて穴不落り今もと云。民家よりと息む。  
 山民多怒りた怒ひ。眉をんとて取捨する体危くとも殺むらう。さるる  
 隠し業といまのねをうけして終ごさうと云。兼合山と出て敵と  
 より。吾等の足かりはも牙の身として其業許へてきたるぞ。只我一  
 の指を賜うんとカげきりければ矣。然りて旧領よりさる。其人乃  
 只の自ら辱て身と隠し。懸居りたる。其者不化を兼合と云。其  
 兼合は後と。承平の初門近治の命と云。是れとて軍功あり。江原中  
 と守護し。甲斐郡に籠を構へ。近江守と稱す。後の伊賀近江に跨る

大化を發しつるにたり。此穴入り奇蹟の跡を以て遺つて。史を  
あつて足を取柄とく。道徳なるもの其言や

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, likely a continuation of the text on the right page.]*

古今奇蹟類聚四卷終

福坂

